

第 14 回 国立天文台サイエンスロードマップ策定委員会議事抄録

日時：2026 年 1 月 26 日（月） 14 時 45 分～16 時 45 分

場所：国立天文台大会議室、Zoom

出席者：

（台外）秋山正幸委員（Zoom）、河野孝太郎委員、高田昌広委員（Zoom）、濤崎智佳委員（Zoom）、戸谷友則委員（Zoom）、堀田英之委員（Zoom）、

（台内）井口聖委員（Zoom）、生駒大洋委員、齋藤正雄委員、都丸隆行委員（Zoom）、竝木則行委員、野村英子委員（Zoom）、藤井友香委員（副委員長）、本原顕太郎委員（委員長）、吉田道利委員

欠席者：

（台外）住貴宏委員、高橋慶太郎委員、渡邊誠一郎委員

陪席：

（台内）土居守台長（Zoom）、堀久仁子特任専門員、金子修研究推進課長、大内香織研究支援係長

1. 確認

1.1 出席者確認

本原委員長から、出席者の確認を行った。

1.2 第 13 回議事抄録の確認

本原委員長から、12 月 22 日に開催された第 13 回国立天文台サイエンスロードマップ策定委員会の議事抄録（案）について説明があり、承認された。

2. 報告と議論

2.1 SRM 報告書案への意見及びフィードバックについて

2.1.1 意見募集状況

本原委員長から、サイエンスロードマップ（SRM）報告書案に対する意見の受理状況について紹介があった。

2.1.2 上記以外の意見提出

2.1.2.1 KAGRA

本原委員長から、重力波分野の関係者から寄せられた意見の紹介があった。

2.1.2.2 SKAJP

本原委員長から、SKA プロジェクトの関係者から寄せられた意見の紹介があった。

2.2 SRM 報告書

2.2.1 「実施優先度」の分け方について

2.2.1.1 KAGRA の取り扱いと追加ヒアリングの提案

本原委員長から、KAGRA の提案は昨年実施したヒアリングの時点から感度が大幅に向上したこと、及び10年間のプロジェクト延長が概算要求で認められたことを踏まえ、追加でヒアリングを実施することの提案があり、意見交換を行った。

意見交換の結果、KAGRA に限らず予算に大きな変更のあった提案については希望に応じて追加ヒアリングを実施することとし、全提案に対して照会を行うことを決定した。

(主な意見交換)

- －KAGRA は昨年夏のヒアリング以降、感度が大幅に向上しており、フロンティア事業としても10年間の延長が認められた。ヒアリング時の評価で最終判断するのは危険であり、追加ヒアリングの実施を提案したい。
- －公平性の観点から、KAGRA に限定せず、ヒアリング時から大きなアップデートのあった提案に関しては追加ヒアリングを募集すべき。
- －フロンティア事業の予算が延長になるのは大きなニュースであり、優先度を変えることも筋は立つのではないか。
- －KAGRA からの意見書を見ると、予算が付いて走っている現行プロジェクトとして、優先順位は付けずにすばるやALMAと同列に扱うことで良いのではないか。
- －SRMの当初の議論では新しいものを実施するスロットを作ることが重要な観点になっており、それが出来なくなってしまうのが心配である。
- －SRMの評価で他機関主導のフロンティア事業の足を引っ張っているように見えてしまうのは心配である。一方で、国立天文台は運営費交付金を投入しており、その分をどう説明するかが難しい。
- －SRMで最優先に位置付けることと、国立天文台が多大なリソースを投入することは必ずしもイコールではない。サポートの度合いまで約束するものではない。
- －最終的に最優先に位置付けたとしても、途中の審査結果について注記を入れることでバランスを取るのはいかがでしょうか。直ぐには決められず、委員の皆さんに考えて頂きたい。

2.2.1.2 それ以外の優先度について

本原委員長から、KAGRA 以外の各提案のSRM 報告書における優先度の割り振りについて説明があった。本件については議題2.2.2で改めて議論を行った。

<主な意見交換>

- －提案によっては、現在実施しているプロジェクトと将来の大きなアップグレードが一つの提案として書かれており、どう扱うべきか難しいものがあつた。次回以降は分けて提案してもらおうと評価し易いのではないか。

2.2.2 SRM 報告書執筆状況確認

本原委員長から、SRM 報告書案の執筆状況について確認が行われ、第2章「世界的な天

文学の動向」において追記が必要とされた分野に関して、担当の委員から対応状況が報告された。

また、本原委員長から SRM 報告書案の第 2 章及び第 3 章「国立天文台の科学戦略」に関して寄せられた意見の紹介があり、対応する執筆担当委員へ 2 月 16 日までに意見反映を行うよう要請がなされた。なお、意見が多く寄せられた分野に関しては、まずは意見の提出者に修正案の提示を求めることとした。

藤井委員（副委員長）から、第 3 章の構成に関して前回までの委員会で議論した波長ごとに Executive Summary を設ける案に代えて、実施優先度の表で用いた区分（提案の規模や質）に沿ったまとめ方とする提案がなされ、合意された。

続けて、委員から最優先となっている一部の提案の割り振りについて疑義が示され、意見交換を行った。意見交換の結果、優先度の境界線付近に位置付けられている提案に関して、本委員会で改めて評価を実施し、最終的な合意形成を行うことを決定した。また、再評価の対象となる提案は国立天文台執行部と協議して選定することとした。

（主な意見交換）

- －国立天文台に軸足の無い将来の計画が最優先の提案に並んでおり違和感がある。最優先として公表されると強いメッセージとなる。
- －ヒアリングの採点に基づいて優先度を割り振っている。ただし、議論の結果で優先度の境界線を変えることは考えられる。
- －少数で評価した提案が最優先に位置付けられるのは適切ではない。委員の名前で出す文章であり慎重さが必要。最優先の提案は一定以上の人数で採点すべき。
- －将来シンポジウムでは、最優先の中でも予算規模や計画の段階によってある程度振り分けられると説明している。そのあたりが明確に分かるように記載しておけば良いのではないか。
- －優先度の境界線付近の提案については改めて評価を行い、本委員会で最終的なコンセンサスを得る作業が必要ではないか。
- －現在の議論の印象で評価してしまうのは適切でない。時間も限られており、対象の提案を絞って対応が可能な委員だけでも改めて提案書とヒアリング録画を視聴して再評価を行うべき。
- －改めて評価を行う提案の選定は国立天文台執行部と検討して決定したい。追って再評価の依頼を行うので協力いただきたい。

2.2.3 今後のスケジュールについて

本原委員長から、今後のスケジュールについて説明があった。その中で、SRM の最終版について 3 月 24 日開催の SRM 委員会で承認を行った上で、運営会議に諮ることで調整し

ている旨報告があった。

2.3 タウンミーティング開催について

本原委員長から、タウンミーティングの開催候補日について説明があり、2月18日12時から開催することを決定した。

2.4 宇宙電波懇談会関係

2.4.1 シンポジウム報告

本原委員長から、12月23日に開催された宇電懇シンポジウムにおいて、SRM策定及び実施計画の見通しのプレゼンテーションを行ったことについて報告があった。また、シンポジウムの参加者から要望のあったSRMへの各提案の採点結果の開示について意見交換を行った結果、採点結果は開示せず、本委員会の見識として優先度を設定した旨を説明することとした。

2.4.2 ニュースレター原稿

本原委員長から、宇宙電波懇談会（宇電懇）ニュースレターに掲載されるSRM策定に関する経緯紹介の原稿案について、各委員へ確認の要請があった。

2.5 今後の委員会開催日程

本原委員長から、本委員会の今後の開催日程についてアナウンスがあった。

以上